

## 商工会議所 L O B O（早期景気観測）

—平成11年10月調査結果—

（平成11年11月1日）

○調査期間：平成11年10月19日～25日

○調査対象：全国の390商工会議所が2633業種組合等にヒアリング  
（内訳）建設業 386 製造業 644 卸売業 240  
小売業 759 サービス業 604

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況（D I 値を集計）  
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)  
業況・採算：(好転) - (悪化)      売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業部 調査課 TEL：03-3283-7836、7843  
E-Mail：sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

## 【平成11年10月調査結果のポイント】

### マイナス幅の縮小傾向は引き続き一進一退で推移

- 10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース。以下同じ）は建設業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、他の4業種でマイナス幅が縮小したことから、DI値は前月水準（▲43.4）より僅かながらマイナス幅が縮小して▲42.7となった。昨年8月に調査開始以来の最低値（▲66.9）を記録した後、本年4月までマイナス幅の縮小が続いたが、その後、マイナス幅の縮小傾向は一進一退の状況が続いている。中小企業の景況は下げ止まり、改善の傾向も一部窺われるものの、依然としてはっきりとした回復への足取りが見えない状況となっている。マイナス水準での推移は平成3年4月以来103ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来98ヶ月連続となっている。

建設業では、「公共工事に受注増加の動きが見られるが、民間工事、住宅建設に変化が見られず先行き更に悪化しそう」、「公共工事の前倒しで持ち堪えたものの民需の減少が続いている」など民間工事低迷の指摘や、「全体の工事量は多少増加傾向にあるが、競争が激しく利益率はダウン傾向にある」、「住宅建設の着工数は堅調に推移しているが、ローン返済負担を軽減させるため価格が低く設定され収益面では厳しい」などの指摘もある。また、「第二次補正予算の公共工事に期待」する声が寄せられている。製造業では、「半導体関係が好転してきた」（電子部品）、「アジア経済の回復感から一部動きがある」（金物）との声がある一方で、「工場の操業率は上がっているが、長期展望が開けないので新たな設備投資に着手できない」（金属加工機械）、「出荷額は増加しているが、大企業のリストラ等不安定要素が多く確実な回復を実感できない」（電子部品）など「完全な回復といえず先行き不透明」（鉄素形材）との見方が多い。卸売業では、「昨年対比では売上高は上がっているが、景気は底をつくとの実感が湧いてこない」（総合卸）との見方のほか、消費不振による業況低迷を訴える声も多く寄せられている。小売業では、「10月前半は気温が下がらず秋・冬物商品が全く不振」（大型店）であったが「気温の低下とともに、主力の秋冬物衣料、婦人雑貨が好調な動き」（大型店）との指摘があった。一方、「雇用不安等から消費マインドは冷え込んでおり、自律的な消費の回復にはほど遠い」（商店街）など個人消費の低迷を指摘する声が引き続き多く寄せられている。サービス業では、旅館から「観光シーズンで客数には回復が見られるが、客単価の下落で業績面は厳しい」、「事業所の固定費の節減は限界にきている」など採算面での厳しさを指摘する声が寄せられている。先行きについては「年末に向けて宴会等の需要に期待したい」（飲食）との声が多い。

売上面では、サービス業で前月水準と同水準となったが、他の4業種でマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が2.5ポイント縮小して▲36.8となった。採算面では、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の採算DIは前月水準よりマイナス幅が2.1ポイント縮小して▲40.4となった。

- 向こう3ヶ月（11月～平成12年1月）の先行き見通しは全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲29.3と現状（▲42.7）より好転するとの見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、総合経済対策や年末に向けての個人消費の動向に対する関心が多く寄せられた。

【業況についての判断】

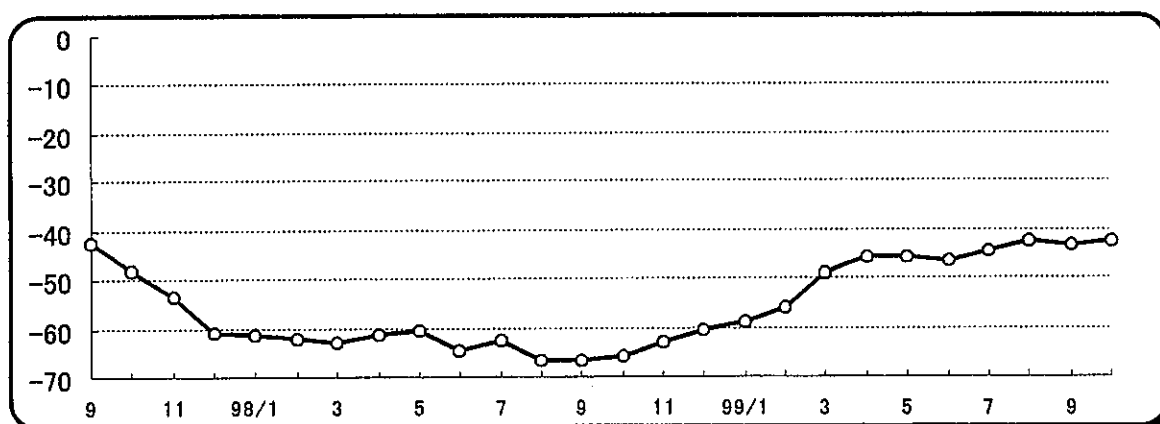
- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース。以下同じ）は建設業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大したものの、他の4業種でマイナス幅が縮小したことから、DI値は前月水準（▲43.4）より僅かながらマイナス幅が縮小して▲42.7となった。昨年8月に調査開始以来の最低値（▲66.9）を記録した後、本年4月までマイナス幅の縮小が続いたが、その後、マイナス幅の縮小傾向は一進一退の状況が続いている。中小企業の景況は下げ止まり、改善の傾向も一部窺われるものの、依然としてはっきりとした回復への足取りが見えない状況となっている。マイナス水準での推移は平成3年4月以来103ヶ月連続、マイナス2桁水準での推移は同年9月以来98ヶ月連続となっている。
- 向こう3ヶ月（11月～平成12年1月）の先行き見通しは全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲29.3と現状（▲42.7）より好転するとの見方となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	11年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲46.0	▲46.7	▲44.6	▲42.5	▲43.4	▲42.7	▲29.3 (▲51.7)
建設	▲41.2	▲45.1	▲41.2	▲46.7	▲40.1	▲43.6	▲33.3 (▲49.5)
製造	▲49.7	▲48.6	▲43.1	▲40.5	▲40.0	▲38.2	▲25.4 (▲52.2)
卸売	▲41.7	▲46.2	▲42.0	▲32.8	▲40.2	▲39.3	▲24.4 (▲47.1)
小売	▲51.0	▲47.3	▲50.2	▲48.6	▲51.1	▲50.7	▲34.1 (▲55.8)
サービス	▲40.2	▲45.1	▲42.6	▲38.5	▲41.4	▲38.7	▲26.9 (▲49.3)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう3ヶ月の先行き見通しDI  
 （ ）内は昨年10月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



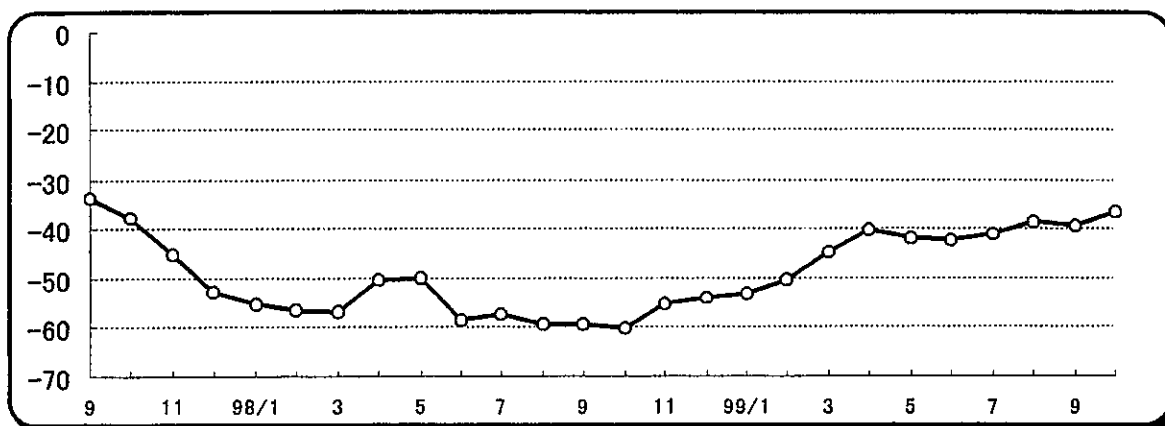
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、サービス業で前月水準と同水準となったが、他の4業種でマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の売上DIは前月水準よりマイナス幅が2.5ポイント縮小して▲36.8となった。
- 向こう3ヶ月（11月～平成12年1月）の先行き見通しは全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲23.1と現状（▲36.8）より好転するとの見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	11年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲41.8	▲42.4	▲41.2	▲38.8	▲39.3	▲36.8	▲23.1 (▲41.5)
建設	▲40.6	▲39.2	▲35.3	▲43.2	▲37.0	▲36.6	▲28.6 (▲38.8)
製造	▲43.8	▲47.4	▲39.6	▲38.5	▲33.3	▲32.2	▲17.9 (▲42.1)
卸売	▲31.3	▲42.0	▲33.1	▲25.3	▲35.1	▲34.9	▲20.1 (▲30.8)
小売	▲45.5	▲43.6	▲49.3	▲47.4	▲50.9	▲42.9	▲29.7 (▲47.2)
サービス	▲39.8	▲37.8	▲40.1	▲31.0	▲35.2	▲35.2	▲18.5 (▲40.0)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



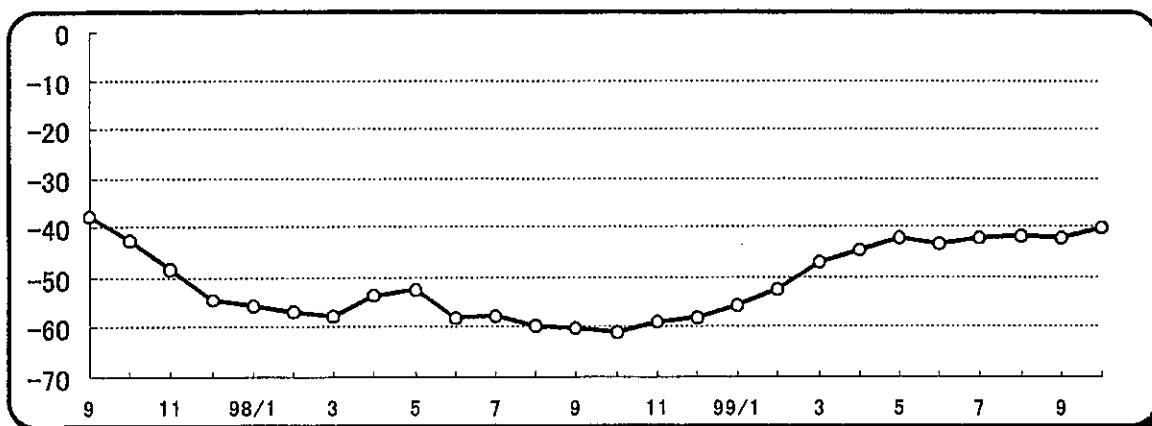
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、全業種で前月水準に比べてマイナス幅が縮小したことから、全産業合計の採算D Iは前月水準よりマイナス幅が2.1ポイント縮小して▲40.4となった。
- 向こう3ヶ月（11月～平成12年1月）の先行き見通しは全産業合計の採算D I（今月比ベース）が▲29.1と現状（▲40.4）より好転するとの見方となっている。

採算D I（前年同月比）の推移

	11年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	▲ 42.5	▲ 43.4	▲ 42.5	▲ 41.9	▲ 42.5	▲ 40.4	▲ 29.1 (▲ 45.7)
建設	▲ 41.9	▲ 44.9	▲ 41.5	▲ 48.8	▲ 45.7	▲ 44.7	▲ 32.7 (▲ 50.9)
製造	▲ 47.3	▲ 49.3	▲ 46.2	▲ 44.4	▲ 40.7	▲ 40.2	▲ 28.0 (▲ 46.7)
卸売	▲ 36.0	▲ 42.8	▲ 38.1	▲ 35.6	▲ 40.8	▲ 38.1	▲ 23.2 (▲ 37.8)
小売	▲ 44.5	▲ 41.0	▲ 44.3	▲ 45.3	▲ 45.6	▲ 42.0	▲ 33.3 (▲ 47.0)
サービス	▲ 37.3	▲ 39.2	▲ 38.6	▲ 32.4	▲ 39.1	▲ 36.6	▲ 25.2 (▲ 42.4)

《採算D I（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

仕入単価DI (前年同月比) の推移

	11年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.7	▲ 2.8	▲ 2.0	▲ 1.3	▲ 4.5 (▲ 5.2)
建設	2.8	0.7	1.8	1.4	1.4	4.7	▲ 1.8 (0.3)
製造	▲ 3.4	▲ 0.6	▲ 4.7	▲ 4.2	▲ 4.8	▲ 4.4	▲ 7.6 (▲ 7.0)
卸売	2.8	9.2	9.5	▲ 2.9	1.8	1.2	▲ 1.2 (▲ 2.3)
小売	1.1	0.4	1.9	1.1	0.8	0.0	▲ 2.9 (▲ 3.8)
サービス	▲ 3.9	▲ 5.5	▲ 4.9	▲ 9.4	▲ 6.3	▲ 4.7	▲ 6.0 (▲ 10.1)

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比DI】建設業、製造業、サービス業で下落超感強まる。

【先行き見通しDI】全業種で上昇超感強まる見通し。

従業員DI (前年同月比) の推移

	11年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	▲ 17.8	▲ 15.9	▲ 15.9	▲ 15.2	▲ 14.7	▲ 14.8	▲ 11.1 (▲ 15.4)
建設	▲ 25.3	▲ 24.1	▲ 21.6	▲ 25.4	▲ 25.3	▲ 22.5	▲ 15.0 (▲ 24.4)
製造	▲ 27.0	▲ 25.5	▲ 24.4	▲ 19.7	▲ 18.4	▲ 18.1	▲ 15.6 (▲ 21.0)
卸売	▲ 14.2	▲ 10.3	▲ 15.4	▲ 17.8	▲ 15.9	▲ 12.4	▲ 8.2 (▲ 12.0)
小売	▲ 11.2	▲ 9.8	▲ 9.9	▲ 9.7	▲ 9.2	▲ 9.2	▲ 7.4 (▲ 12.0)
サービス	▲ 12.6	▲ 9.9	▲ 10.4	▲ 8.8	▲ 9.8	▲ 13.3	▲ 10.8 (▲ 9.8)

DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比DI】建設業、製造業、卸売業で過剰超感弱まる。

【先行き見通しDI】全業種で過剰超感弱まる見通し。

【平成11年10月の景気キーワード】

○ 下げ止まり感

業況の低迷を指摘する声が多く寄せられる一方で、景気の下げ止まり感や底入れ感を指摘する声も寄せられている。しかしながら、本格的な回復の動きは見られないとの見方が多い。建設業では「景気の底入れは感じるものの回復基調の動きが見られない」（恵庭・一般工事）などの声が寄せられている。製造業からは「完全な回復にはないが、下げ止まり感はある。ただし、どの企業もリストラが限界にきており先行きは不透明」（川崎・鉄素形材製造）や「対前年比ではよいが、まだまだ水面下でのことで採算はギリギリ。来年5月くらいになって本格的な回復基調を実感できるのではないか」（青梅・産業用機械）といった声が寄せられた。小売業では、「回復感はあるが個人消費は依然低迷」（境港・商店街）、「売上に多少の明るさが出てきたが先行きは不透明」（大津・商店街）などの声。サービス業では旅館から「客数は少々回復が見られるが、客単価は低調」（会津若松、京都他）といった指摘が寄せられている。

○ 需要の低迷

需要の低迷を指摘する声が続く寄せられている。建設業からは、住宅建設について「融資・税制面での環境は過去にない好条件であるが、雇用不安を持ってでの今後の消費動向に不安を持たざるを得ない」（二本松、酒田・一般工事）や「着工数は堅調に推移しているもののローン負担を軽減させるために価格は以前より低く設定されており収益面では厳しい状況」（静岡）などの声が寄せられている。小売業からは、「リストラ等雇用情勢の悪化等により個人消費が伸び悩みが大きい」（小野・商店街）や「歳末商戦に期待しているが、その季節的要因を除けば、自律的な消費の回復にはほど遠い」（高松・商店街）との声が寄せられている。サービス業からは、「先行き不安の影響か、相変わらず個人消費が低迷している。オンシーズンに入るが多くは期待できない」（福島・旅館）との見方も寄せられている。

○ 天候不順

「10月の気候とは思えない暑さが続いており、秋冬物の出荷がストップしている」（一宮・外衣製造、長岡・繊維卸他）や「10月前半は気温が下がらず秋物・冬物商品が全く動かず不振」（下館・大型店）など上旬の高気温の影響を指摘する声が多く寄せられている。後半は「急に冷え込んできたためまずまずの売上まで回復」（狭山、柏・大型店、静岡・商店街）との声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
11年8月	下げ止まり感	消費の低迷	天候不順
9月	下げ止まり感	円高・原油高	秋物不振
10月	下げ止まり感	需要の低迷	天候不順

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況DIは前月水準に比べてマイナス幅が拡大しているものの、売上・採算DIはマイナス幅が縮小している。「公共工事に受注増加の動きが見られるが、民間工事、住宅建設に変化が見られず先行き更に悪化しそう」、「公共工事の前倒しで持ち堪えたものの民需の減少が続いている」など民間工事低迷の指摘や、「全体の工事量は多少増加傾向にあるが、競争が激しく利益率はダウン傾向にある」、「住宅建設の着工数は堅調に推移しているが、ローン返済負担を軽減させるため価格が低く設定され収益面では厳しい」などの指摘もある。また、「第二次補正予算の公共工事に期待」する声が寄せられている。
製 造	業況・売上・採算DIとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「半導体関係が好転してきた」（電子部品）、「アジア経済の回復感から一部動きがある」（金物）との声がある一方で、「工場の操業率は上がっているが、長期展望が開けないので新たな設備投資に着手できない」（金属加工機械）、「出荷額は増加しているが、大企業のリストラ等不安定要素が多く確実な回復を実感できない」（電子部品）など「完全な回復といえず先行き不透明」（鉄素形材）との見方が多い。
卸 売	業況・売上・採算DIとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「昨年対比では売上高は上がっているが、景気は底をつくとの実感が湧いてこない」（総合卸）との見方のほか、消費不振による業況低迷を訴える声も多く寄せられている。
小 売	業況・売上・採算DIとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。「10月前半は気温が下がらず秋・冬物商品が全く不振」（大型店）であったが「気温の低下とともに、主力の秋冬物衣料、婦人雑貨が好調な動き」（大型店）との指摘があった。一方、「雇用不安等から消費マインドは冷え込んでおり、自律的な消費の回復にはほど遠い」（商店街）など個人消費の低迷を指摘する声が引き続き多く寄せられている。
サービス	売上DIは前月水準と同水準となったが、業況・採算DIは前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。旅館から「観光シーズンで客数には回復が見られるが、客単価の下落で業績面は厳しい」、「事業所の固定費の節減は限界にきている」など採算面での厳しさを指摘する声が寄せられている。先行きについては「年末に向けて宴会等の需要に期待したい」（飲食）との声が多い。



(参考)

【ブロック別概況】

○ ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では、全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。ブロック別では、東北、北陸信越、近畿、中国、九州の5ブロックで前月水準を上回り、北海道、関東、東海、四国の4ブロックで前月水準を下回った。

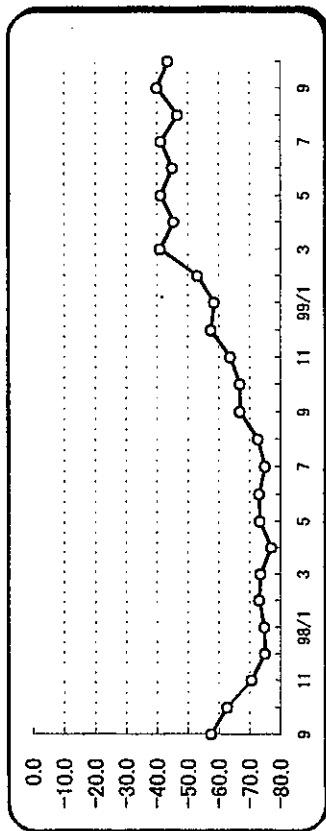
○ ブロック別の向こう3ヶ月の業況先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。北海道を除く全ブロックで現状より上向くとの見方になっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

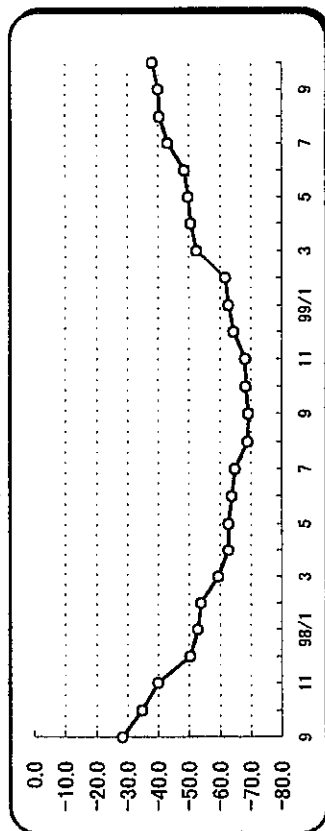
	11年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全 国	▲ 46.0	▲ 46.7	▲ 44.6	▲ 42.5	▲ 43.4	▲ 42.7	▲ 29.3 (▲ 51.7)
北海道	▲ 29.6	▲ 23.0	▲ 22.4	▲ 13.5	▲ 18.5	▲ 23.5	▲ 25.0 (▲ 50.0)
東 北	▲ 42.4	▲ 38.1	▲ 37.7	▲ 34.6	▲ 36.6	▲ 34.0	▲ 28.0 (▲ 59.4)
北陸信越	▲ 46.2	▲ 46.7	▲ 49.7	▲ 37.1	▲ 51.0	▲ 44.8	▲ 29.2 (▲ 52.2)
関 東	▲ 50.5	▲ 46.1	▲ 42.7	▲ 43.0	▲ 44.5	▲ 46.2	▲ 26.6 (▲ 49.9)
東 海	▲ 46.3	▲ 50.9	▲ 52.1	▲ 47.3	▲ 51.6	▲ 55.2	▲ 44.2 (▲ 58.7)
近 畿	▲ 51.8	▲ 57.1	▲ 55.9	▲ 54.8	▲ 50.0	▲ 49.2	▲ 35.7 (▲ 53.2)
中 国	▲ 48.9	▲ 53.6	▲ 47.1	▲ 50.3	▲ 49.7	▲ 47.2	▲ 35.8 (▲ 52.2)
四 国	▲ 51.3	▲ 56.2	▲ 49.6	▲ 53.6	▲ 45.9	▲ 48.6	▲ 16.2 (▲ 45.8)
九 州	▲ 35.1	▲ 42.3	▲ 38.8	▲ 40.6	▲ 34.5	▲ 24.7	▲ 19.2 (▲ 45.7)

# 業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

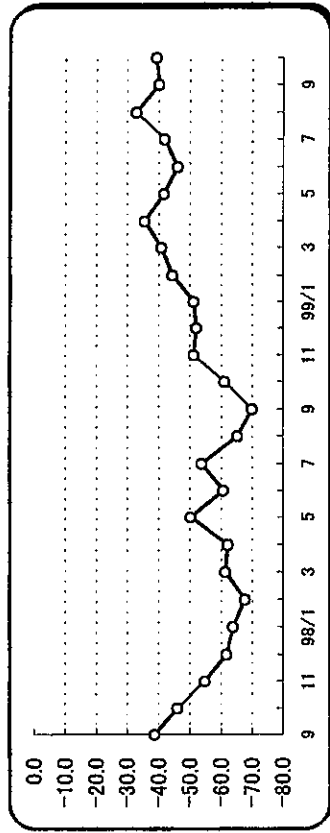
## 建設業



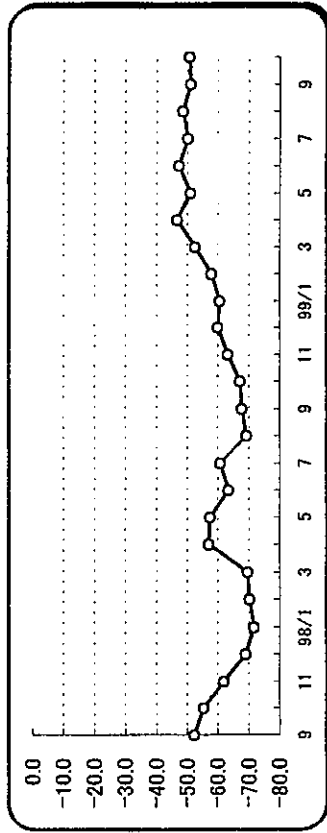
## 製造業



## 卸売業



## 小売業



## サービス業

